

# 令和6年度 研究推進校事業【主体的に学習に取り組む基盤づくり】

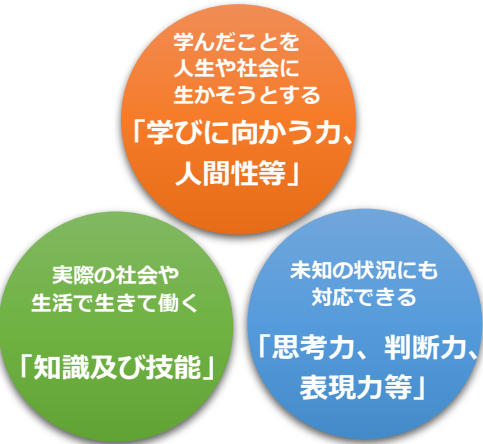
令和5年11月8日  
板橋区教育支援センター

## 1 背景

### ○持続可能な社会の創り手としての資質・能力

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）（令和3年1月）では、資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理した上で、一体的に育成していくことをめざしている学習指導要領（平成29年告示）の着実な実施を求めている。

また、学習指導要領において、「学びに向かう力、人間性等」は、「他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素」としている。



### ○教科センター方式の推進

主体的に学習に取り組む生徒の育成が期待できる教科センター方式は、平成25年度の赤塚第二中学校に始まり、中台中学校、上板橋第二中学校で採用されている。今後改築予定の志村第四中学校、上板橋第一中学校においても、これまでの成果を踏まえて、新時代の学びを支える教育環境として、教科センター方式を採用していく。

## 2 今後の方向性

本区では、令和5年度現在、3校で教科センター方式を導入しており、各校とも教育環境を生かした教育課程の編成、工夫した教育活動の実践により、求められる資質・能力の定着・向上に大きく成果を挙げている。今後の導入予定校も含めると約1/4が教科センター方式になることを踏まえ、成果を全体に広めること及び、導入校・導入予定校の持続可能な推進体制の確保の観点から、以下の視点を中心に取組を推進していく必要がある。

- ①教育委員会が中心となった教科センター方式の研究推進体制の構築
- ②導入校・導入予定校・その他の学校の連携体制構築
- ③教科センター方式の活用を柱とした教育活動の効果検証による効果的実践の共有・推進

## 4 スケジュール案

6～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R6 1学期	2学期	3学期	R7 1学期	2学期	3学期
★推進校 事前レク	★課長会 ★教育委員会 ★代表校長会		★研究推進委員会 (準備回) ・計画の確認・調整		★研究推進委員会 (準備回) ・R6の第2回・第3回の会場等の計画の作成 ・研究調査指標（都調査）の決定			★研究推進委員会 (第1回) ☆東京都調査実施	★研究推進委員会 (第2回) ☆結果分析	★研究推進委員会 (第3回) ・前半：授業公開 後半：教委主催シンポジウム ・小中学校各1名以上参加	★研究推進委員会 (第1回) ☆東京都調査実施	★研究推進委員会 (第2回) ☆結果分析	★研究推進委員会 (第3回)

## 3 研究推進校【主体的に学習に取り組む基盤づくり】について

### 1 概要

教科センター方式を既に導入し、「教科教室型研究推進校」として指定している3校（赤塚第二中学校・中台中学校・上板橋第二中学校）と今後導入予定の2校（志村第四中学校・上板橋第一中学校）の計5校を「主体的に学習に取り組む基盤研究推進校」に指定し、大学との連携を踏まえつつ、定期的かつ継続的な研究推進体制を整備し、各校の実践・研究成果を共有し、その取組を全区立中学校に展開していく。

### 2 目的

- ・主体的に学習に取り組む生徒の育成に向けた教科センター方式の活用を柱とする持続的で子どもたちにとって魅力ある学校教育の推進
- ・改築校の教科センター方式への移行準備、改築校の実践を基に一般化し、その他の学校で展開
- ・教科センター方式採用校への将来的な異動者の育成による人材確保

### 3 具体的取組

- ・「主体的に学習に取り組む基盤研究推進委員会」年間3回開催
  - 1学期：大学教授を招聘し、研究・実践の方向性を確認
  - 2学期前半～中頃：推進校による実践及び東京都調査結果の共有
  - 2学期後半～3学期：推進校1校を会場に授業公開し、その後、教育委員会主催で年間の取組報告や推進校代表をパネリストにしたシンポジウムを実施
- ・東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を活用した「学びに向かう力」の結果分析
- ・推進校の取組成果を基にした仮想メディアスペースの構築

研究推進委員会  
・学識経験者  
・推進校校長【赤二中・中台中・上二中・志四中・上一中】  
・教育支援センター  
・指導室  
・学校配置調整担当課